「電子図書館レポート 2000」の発刊にあたって

本学に電子図書館が設置されて既に 5 年近くの歳月が経過した。この間、電子図書館を取り巻く環境の変化はめまぐるしいものがある。

電子図書館実現への取り組みと今後の課題などをまとめた本レポート 2000 は前回発刊以降の進捗状況と、この間いかなる課題が生じたかを記す最近 1 年間の活動の総括である。

電子図書館創設以来、総電子化蓄積量は 100 万頁を越えた。本年 3 月には第 1 期システムの更新を済ませ、電子化技術は一定のレベルに達し、日々約 1500 頁を電子化する処理能力を有し、システムも安定稼動している。実用型電子図書館として見た場合、システム的には利用者の皆様にストレスを感じさせないレベルまで達してきているのではないかと思っている。

今後、電子図書館を発展させるために我々にとって重要なことは、コンテンツの充実を図る、この一言につきるのではないかと思われる。また、これに関連してシステム開発においては、机上の空論ではなく実際に行動に移していく必要があることと、今一度電子図書館として、資料の収集、蓄積、使い勝手という観点から見つめ直し、学内コンセンサスを得ることではないか。

我々は 2000 年ミレニアムを期して、次世代電子図書館構想を示す幕を上げるべきところにさしかかってきた。現在のところ、電子図書館をより理想に近い形で構築するには、どうしても著作権法という厳しい高い壁がその発展を阻害しているが、これを突破する新たな試みが必要である。その試みの一つとして、「ライブラリーコンソーシアム」という新たな形を模索し、実際に取り組みはじめており、早急に結果を出していきたいと思っている。

また、本学電子図書館には、平成 10 年 6 月に全国に先駆けて、研究開発室を設置し、情報科学研究科、情報科学センターより 1 名の教授、3 名の助教授の兼務支援と専任助手 2 名で電子図書館に関する研究・開発と電子図書館の技術的指導に従事している。本レポートは彼らの活動報告でもある。

今後、研究開発室が更に研究・開発をすすめ、国際的な視野で、電子図書館の将来構想を立ててくれることを期待する

平成 12 年 11 月 1 日

附属図書館長

小山　正樹